

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 学力・学習状況調査等を活用しての児童の分析を活用した、重点研究を中心とした教員の研究・研修が定着してきている。研究で得た成果を毎年積み重ね、次年度以降に生かしていきたい。
- (2) 地域ボランティアを活用した特色ある学習を積極的に取り入れ、学校・家庭・地域との連携による学習を推進する努力をしている。
- (3) 基礎・基本の学力の定着が課題になる児童が多く、個別に教育的支援を行う必要がある。教室環境の整備や学びのスタンダードの定着を目指している。
- (4) 家庭学習の継続が難しく、学習意欲が低い児童が多い。

2 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

（2）学力向上に関する指導の目標・方針（平成30年度末の姿）

- 基礎・基本の学力の定着の充実を重点的に取り組み、知識・技能の定着のみならず、思考力・判断力・表現力の育成を図り、市学力・学習状況調査の標準化得点が2ポイント向上しています。
- 日々の授業における教材研究の時間を確保し、児童が主体的に学ぶ姿が見られる授業の工夫を行っています。
- 個に応じた指導の在り方を全教員で研修し、児童の学習への意欲を高め、主体的な学習へとつなげています。

3 横浜市学力・学習状況調査からの平成27年度の実態把握

平成27年度 学力

平成26年度 学力

（1）学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均を下回っている傾向がある。学習意識、生活意識が低く学習が生活に役立つという実感が低い児童が多い。学習と生活を結び付けて考えられたり、学習することが楽しいと実感できるような授業改善、また、基礎基本の学力の定着が求められる。

（2）教科学習の状況

- 国語科：読む力は比較的身につけてきたが、言語に対する知識理解や目的に応じて書く力が課題。
- 算数科：算数における知識の定着が課題。その上で技能や思考力を伸ばす授業を改善していく必要がある。
- 社会科：社会的事象についての知識の定着を目指し、さらに思考力・表現力を伸ばしていく事が課題。
- 理科：実験の技能や知識の定着が課題。その上で思考力・表現力を伸ばす授業を改善していく必要がある。

（3）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学力・意識ともに、横浜市の平均に比べ、下回っている学年、または教科が多い。基礎・基本の学力の定着を目標に1時間ごとに何を身に付けていくのかを明確化し、児童が「わかった」「できた」を実感できるような授業づくりを目指していく必要がある。小さな「わかった」「できた」を積み重ねていく事で「やりたい」「学びたい」といった主体的な学びの意識を育てていきたい。また、家庭での学習習慣が身につけていない児童も多く、保護者との連携を図りつつ、自主的な学びの習慣を継続的に指導していく必要がある。

川和小学校では、「自ら進んで学習する子」を目指した授業の改善に取り組んでいる。その中で学習意識の高まりも少しずつ感じられるようになってきている。今後も児童の意欲を引き出し、基礎・基本の学力の定着を目指した授業の改善を継続していく必要がある。

3 平成28年度 目標と具体的方策

平成28年度 目標

基礎・基本の学力の定着をはかり、自ら進んで学習する子を目指して

(1) 学校組織としての共通の取組

- ① 身に付ける力を明確化し、基礎・基本の学力の定着をはかる指導や支援の方法を探る
 - ・1時間1時間の身に付ける力を明確にし、確実に学習内容が身につくような指導法や支援を工夫する。
 - ・評価方法の工夫・改善を進め、子どもの実態を把握し、個に応じた指導をする。
 - ・9年間に身に付ける力を明らかにし、一人ひとりの子どもの実態に合った指導を行う。
- ② 教科の特性を生かした言語活動を取り入れ、子どもが主体的に学んでいく授業実践を行う
 - ・教科の特性を生かした言語活動の充実を図り、自ら学ぶ力を高めるための授業のあり方を探る。
 - ・単元の系統性、学年の系統性を大切にする。
 - ・学びの履歴を生かし、豊かな言語活動を行う。
- ③ 読書活動を中心とした情報活用の推進をはかり、学力向上と読書の相関関係を明らかにする。
 - ・人、本、新聞、インターネットなどの情報を効果的に活用し、学びを深めるようにする。
 - ・学校図書館の活用や言語環境の整備を進める。

(2) 学年・教科等としての取組

○基礎・基本の学力の定着

第1学年

- 基礎基本を押さえ、繰り返し練習問題に取り組むようにする。
- 話を聞く姿勢を身に付ける。
- 読書の時間を確保し、本から学びを大切にする。
- 学習内容を正しく理解してから、次の学習に進むようにする。

第2学年

- 学習のめあてを意識し、楽しんで学習に取り組めるように学習活動を工夫する。
- 音読・漢字・計算など、家庭学習も含めた繰り返しの学習による基礎基本の学力の定着を図る。
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、本や文章を楽しんで読むために、読書の時間を確保する。

第3学年

- 基礎・基本の定着を図る。朝のスキルタイムを有効に活用したり、算数はその日に学習した内容に取り組むことができるようにする。
- 「分かる」「楽しい」と感じられるように学習内容を工夫する。
- 国語科の学習では並行読書を取り入れ、読書活動の充実を図る。

第4学年

- 理由の述べ方、考え方を言葉、図などを使って説明できる力を養う。
- 自ら意見を発表したり、友だちの意見を聞いてどのような考えか考えたりすることができるように、聞く時間を大切にする。
- 漢字練習に力を入れ、語彙力を養う。

第5学年

- 基礎・基本の定着を図る。そのために、音読や漢字学習など、家庭学習と連携していく。
- 少人数算数や専科による授業を行い、専門性を高めるとともに、個に応じた支援を継続できるようにする。
- 学校司書と連携し、教科・単元に応じた読書活動を通して、豊かな情操教育を育む。

第6学年

- 基礎・基本の定着をはかるために、宿題を計画的に出し、漢字や計算を反復学習する。
- 子どもの思いを大切にしながら、問題解決学習に努める。
- 本が身近にある環境づくりに努め、読書の推進をはかる。

個別支援学級

- ・個別指導計画に基づき、一人ひとりのニーズに合った基礎・基本を押さえながら、音読や話す・聞く学習を多く取り入れ、言葉によるコミュニケーションの力を培う。
- ・実践や実習を通して、具体的な生活の場面で活用できるようにする。